

5月米国雇用統計の注目点

米国の雇用環境が早期改善と判断するのは時期尚早

- 米非農業部門雇用者数は、事前予想を1千万人以上も上振れる空前のポジティブサプライズ
- 但し、4月に離職した8人に1人が復帰したにすぎず、雇用環境の早期改善の判断は時期尚早
- トランプ政権は「市場最大の復活」とアピール、コロナ禍からの経済復活が再選戦略の柱に

■「都市封鎖」解除後の改善見極めはこれから

5月の非農業部門雇用者数は、750万人減少の市場予想に反し、250万人の増加となりました。1000万人近く予想を上振れる前代未聞のポジティブサプライズに市場は素直に反応、5日のNYダウは3%超の上昇、ナスダック総合指数は、一時2月の最高値を上回りました。

大きく上振れた理由として、失業保険受給者数の動きがミスリードとなった可能性が考えられます。図表1に示す通り、失業保険受給者数は5月半ば時点で2000万人超と、4月を大きく上回っていました。このため、多くの市場参加者が5月雇用者数（5月12日の週に集計）は悪化継続と予想していたと考えられます。

5月雇用者数は1.33億人と、3月の1.51億人から約1800万人減少しています。5月時点では、コロナ禍で失職した人の8人に1人が職場復帰したにすぎず、今回の統計をもって、雇用が予想外の早いペースで改善すると結論付けることは時期尚早と考えます。

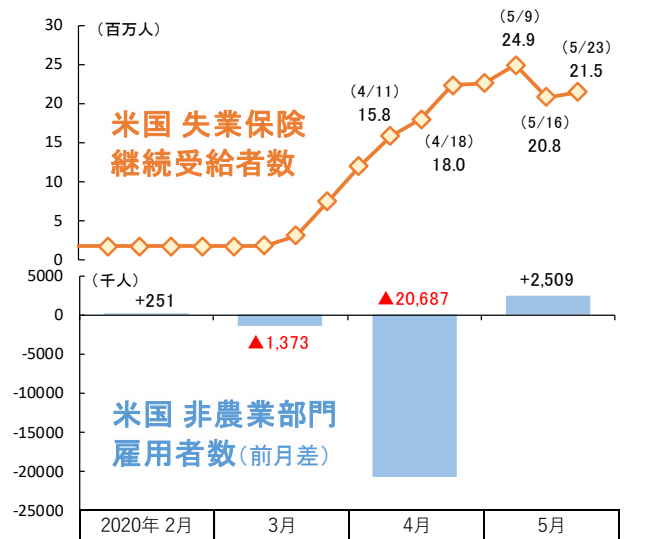
■トランプ大統領の再選は“経済回復”に掛かる

今回の雇用統計発表直後に、ペンス副大統領がテレビに生出演、その直後にトランプ大統領が記者会見を開き、“史上最大の復活”、“政権の経済政策の正しさが証明された”と自画自賛しました。11月の大統領選挙が近づく中、有権者へのアピールを強めています。

全米で死者10万人以上となったコロナ禍の対応のまずさや足元の人種問題に絡む全米規模の抗議行動で、トランプ大統領の再選を危ぶむ見方が広がっています（図表2ご参照）。大統領選は、“しょせん経済（It's the economy, stupid）”と言われるように、経済低迷は再選を目指す現職大統領にとって圧倒的に不利となります。大統領選まであと5ヵ月の間、トランプ政権は、米国経済の回復と米国株高を徹底的にアピールする戦略を打ち出すものと考えられます。その際、FRBに対しても一段と強く金融緩和の圧力を掛けると予想され、今週のFOMCを含めFRBの対応が注目されます。

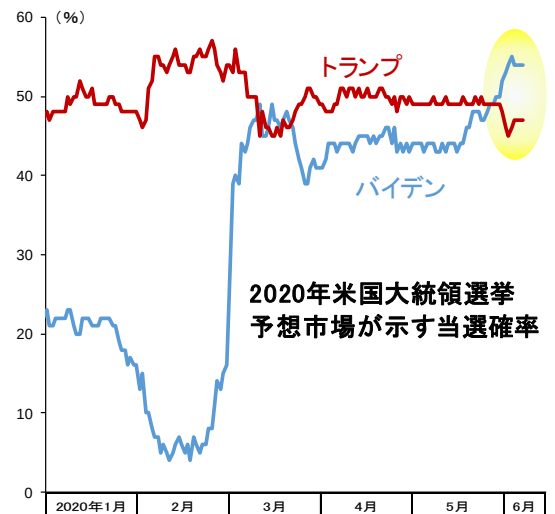
運用戦略部 投資戦略グループ 岩井 真子

図表1. 米国 失業保険受給者数と雇用者数



【出所】 Haver analytics、ブルームバーグの公表データに基づき、りそなアセットマネジメントが作成

図表2. 2020年大統領選挙 予想市場の当選確率



【出所】 ブルームバーグの公表データに基づき、りそなアセットマネジメントが作成

〈本資料に関するご留意事項〉

本資料は、リソナアセットマネジメント株式会社が投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

本資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。

本資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。なお、掲載されている見解は本資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また、事前の連絡なしに変更されることがあります。

投資信託は、値動きのある資産を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします「投資信託目論見書（交付目論見書）」および一体としてお渡しする「目論見書補完書面」を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。